

## 進行課題一覧 計 23 課題（平成 28 年度 9 月現在）

(1) 放射線被ばく線量の評価等に関する研究

課題名	主任研究者	所属機関
短半減期核種の寄与と合理的な線量係数を考慮した内部被ばく線量評価の高精度化に関する研究	高橋 千太郎	京都大学
住家内汚染の包括的研究及びこれによる内部被ばく線量評価	吉田 浩子	東北大学
乳菌を用いた福島県在住小児の被曝線量評価	佐々木 啓一	東北大学

(2) 放射線による健康影響の解明及び放射線以外の要因による健康リスクの低減を含めた総合的な健康リスクに関する研究

課題名	主任研究者	所属機関
極低線量率放射線連続被ばくマウスを用いた健康影響解析	杉原 崇	環境科学技術研究所
小児期の生活習慣等の低線量放射線発がんリスクにおよぼす影響とメカニズム解明	鈴木 啓司	長崎大学
小児・青年期の低線量率放射線被ばくによるがんリスクの評価——インドケララ州の高自然放射線地域住民の調査結果を中心として	秋葉 澄伯	鹿児島大学
マウスを用いたセシウム 137 の慢性的低線量内部被ばくによる成体と子孫への影響の定量的実験検証	中島 裕夫	大阪大学
低線量率放射線長期連続照射によるマウス急性骨髄生白血病の起因となる PU. 1 遺伝子変異の線量率依存性の解析～放射線発がんの線量率効果の仕組みを考える～	甲斐 倫明	大分県立看護科学大学
低線量放射線は循環器疾患のリスクを上げるか？低線量率放射線は？放射線関連循環器疾患の機序の解明	高橋 規郎	放射線影響研究所
DNA 損傷・修復に基づく放射線・化学物質影響の統合と個人差の評価に関する研究	松本 義久	東京工業大学

(3) 放射線による健康不安対策の推進に関する研究

課題名	主任研究者	所属機関
里山地域の生活・生産活動を支える放射線被ばくと里山資源汚染の実態調査と動向予測研究	原田 浩二	京都大学
放射線による健康不安対策を実践する保健師・養護教諭のための教育プログラムの検討	川崎 裕美	広島大学
リスクの多元性を考慮したリスクコミュニケーションの実施とそのあり方に関する研究	中川 恵一	東京大学

原子力災害事故後の中長期的にわたる放射線ヘルスプロモーションの確立に向けて ～なみえまちからはじめよう。～	西沢 義子	弘前大学
福島県における放射線健康不安の経年変化の把握と対策の促進に関する研究	川上 憲人	東京大学
イーラーニング（e-learning）を活用した、福島県、日本、アジアにおける包括的な放射線教育システムの確立	大野 和子	京都医療科学大学
放射線被ばく不安に関連した潜在的要因の解析によるオーダーメイドな放射線リスクコミュニケーションに向けて	長谷川 有史	福島県立医科大学
ビッグデータ解析による 3.11 以降の放射線影響に関する科学者の情報発信とその波及効果の検証：クライシス時に有効な科学者の情報発信法の開発を目指して	宇野 賀津子	ルイ・パストゥール医学研究センター
地域住民が主体となって取り組む放射線安全管理体制の整備と実践	角山 雄一	京都大学
インフォグラフィックスを活用した効果的なリスクコミュニケーション技術の開発	藤井 博史	国立がん研究センター

(4) 事故後の住民の被ばく線量の包括的な把握に関する研究

課題名	主任研究者	所属機関
東京電力福島第一原子力発電事故における住民の線量評価に関する包括研究	鈴木 元	国際医療福祉大学 クリニック

(5) 福島県内外での疾病罹患動向の把握に関する調査研究

課題名	主任研究者	所属機関
福島県内外での疾病動向の把握に関する調査研究	祖父江 友孝	大阪大学
福島県内における原発事故後の健康状況の変化とその関連要因についての疫学研究	大平 哲也	福島県立医科大学